



# みなとしみず

国土交通省中部地方整備局  
清水港湾事務所  
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港分室  
静岡県清水区日の出町7番2号  
TEL. 0543-52-4146  
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

## 体験学習による清水港観光交流促進協議会開催

清水港湾事務所では、国土交通省港湾局が推進している、みなとを核とした地域の観光振興に取り組む「みなと観光交流促進プロジェクト」のモデル港（全国10港）のひとつに清水港が選定されたことを受け、「みなとの体験学習による観光振興」をテーマに協議会を設立しました。

協議会の委員は、行政関係者、観光関係者、学校関係者、施設関係者、市民団体、学識経験者で構成されています。

11月16日(水)に開催した第1回協議会では、協議会の目的及び今後のスケジュールを説明したあと、清水港における観光資源の現状を確認しました。今後、実施する清水港の体験学習イベントを行うにあたり、委員の方々からは、「清水港ならではの体験学習イベントを検討すべき」「プロジェクト終了後のネットワーク形成が必要」など、活発に意見が出されました。また、12月14日(水)の第2回協議会では体験学習イベント計画案を提示し、「参加対象を小学5～6年生にする。」「参加費を徴収する。」ことなど大筋で合意をいただきました。



### ◇今後の予定

2月中：清水港を題材とした体験学習イベントを実施。

3月中：第3回協議会を開催。体験学習イベントをふまえた清水港の体験学習による交流促進計画を策定する。

## 日本最大級のクレーン船がやってきた

清水港で製作されていた下田港防波堤（東）のハイブリッドケーソン（幅 29.0m×高さ 25.0m×延長 21.0m）鋼かく（鋼製骨組：重量約 470 t）が完成し、下田港へ回航するため日本最大級のクレーン船（富士：3,000t 吊り）が、清水港に入港しました。大型クレーン船を使用して製作ヤードから台船への積替えが行われ、下田港に運搬された鋼かくは、FD（作業台船 7,000 t）上に積替え現在コンクリート打設などを行い、H18.3に製作を完了し、18年度に防波堤（東）へ据付け予定です。

清水港から  
運び出す様子



下田港



FD  
(浮きドック)

清水港興津FAZフェアアンケート結果

11月13日(日)に『清水港興津FAZフェア』が興津国際物流センターで開催されました。清水港は平成8年3月に輸入促進(FAZ)地域に指定されており、同センターはその中核施設となっています。

清水港湾事務所では、みなとの役割を理解して戴くためのパネル展示等を行うとともに、300名の方を対象にアンケートを行い、たくさんのご意見をいただきましたのでご報告します。

Q1 性別は？

男性	156人
女性	144人
合計	300人

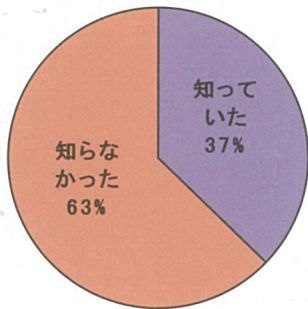
Q2 年齢は？

10歳未満	11人	10歳代	7人
20歳代	3人	30歳代	36人
40歳代	46人	50歳代	63人
60歳代	86人	70歳以上	48人

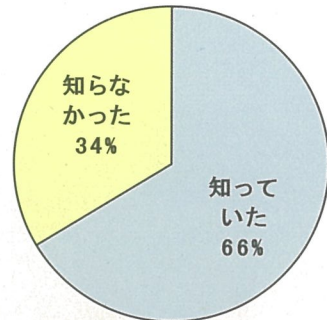
Q3 どこから来ましたか？

静岡市	清水区	261人
	葵区	16人
	駿河区	6人
静岡市以外		13人
県外		4人

Q4 清水港ではサッカーボールの輸入が日本一ということを知っていましたか？



Q5 清水港ではオートバイの輸出が日本一ということを知っていましたか？



Q6 清水港に関するご意見など・・・

- \* 釣りができる場所がほしい
- \* 公園など遊べる場所を整備してほしい
- \* フェンスができて残念、港の開放をしてほしい
- \* もっとたくさんイベントをやしてほしい
- \* ゴミを減らしてきれいな港にしたい
- \* 学校などの勉強のために清水港の見学をしたい
- \* 港の背後地の開発を進めてほしい



貴重なご意見、ご協力ありがとうございました。今回のアンケート結果を今後の業務に役立てていきたいと思ひます。

豪華客船『飛鳥』入港

12月12日(月)午前、日本籍最大の客船「飛鳥」(28,856トン)が



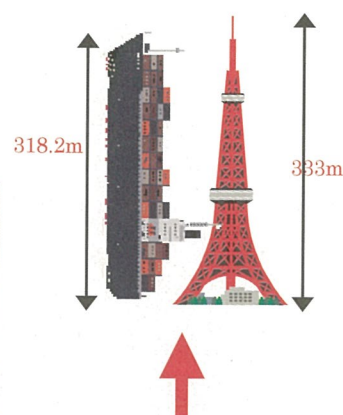
清水港に入港しました。「飛鳥II」の導入に伴い「飛鳥」は2006年1月出港のアジアグランドクルーズでラストクルーズとなります。「飛鳥II」(48,621トン)は「飛鳥」よりも大型で「クリスタル・ハーモニー」を改装し2006年の春からクルーズを開始することとなっています。



### 北米定期コンテナ航路開設

10月から清水港の外貿コンテナ航路、20航路目となる北米定期航路が開設され、10月18日(火)未明に清水港新興津埠頭に第1船が初入港しました。入港したのはデンマーク船籍のフルコンテナ船カトリン・マースク(81,488t)で清水港に入港した船舶の中で過去最大級の大きさです。週一便、毎週月曜日入港予定です。

航路は、清水→ロサンゼルス→タコマ→横浜→高雄→香港→塩田→厦門→高雄→清水を回ります。



カトリン・マースクの大きさは東京タワーの高さとほぼ同じくらい!

### テルファー(クレーン)と清水港船上見学会

11月11日(金)に文化庁、国土交通省他が後援となっている、「近代化遺産全国一斉公開2005」の事業に参加しました。まず、フェルケール博物館で、清水港の歴史を紹介しながら見学し、国登録有形文化財である港湾荷役機械(テルファー)を見学。その後、当事務所所有の船に乗り、清水港の施設などを見学して、その重要性などを理解していただきました。参加者からは、「テルファーの大きさに驚いた。」「船から見る風景には違った発見がある。」と言った意見があり有意義な見学会になりました。

テルファーとは、臨港線の清水駅に設置された木材積込用の荷役機械で昭和3年に作られ、昭和46年まで現役で活躍していました。当時は神戸・名古屋にもありましたが、現在残っているのは清水港だけです。



### 稲生沢小学校出前講座



10月26日(水)に清水港湾事務所 佐藤 清 副所長が下田市立稲生沢小学校の依頼を受け「船の安全な航海とみなとまち下田を守るために」と題して下田港防波堤整備について、4年生32名を対象に出前講座を行いました。生徒達は地震・津波など災害について学習するなかで、下田港防波堤が避難港としての役割のほか背後地域の津波低減効果があることを知るとともに11月4日(金)には、防波堤建設現場見学を行いました。また、市内にある稲田寺津波塚や武ヶ浜波除堤なども見学し、災害や安全について熱心に学んでいました。



### 御前崎港の外航コンテナ取扱量が順調に伸びています



御前崎港の多目的国際ターミナルは、平成16年1月に供用を開始しました。平成17年4月には3航路目となる韓国定期コンテナ船が就航し、コンテナ取扱量は順調に伸びています。

平成17年の上半期(1~6月)速報値での輸出入・移出入のコンテナ取扱量は1万3,000個を超えました。外貿貨物の輸出のほとんどを自動車部品が占めています。

### みなとづくり見学会

“みなとづくり見学会”とは、地域コミュニケーション（広報広聴）活動の一環として、港に関する講座や港内を見学してもらい、地域の皆さんに広く『みなと』の果たす役割を理解してもらうために行っているものです。



実施日	団体名
10月 3日	御前崎商工会議所
10月21日	玉川学園小学部 3年生
10月21日	伊東市立大池小学校 5年生
11月 4日	下田市立稲生沢小学校 4年生
11月11日	テルファーと清水港船上見学会
11月15日	するが女性みちの会
12月 5日	浜岡商工会議所

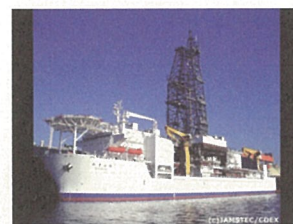
黒字：清水港／赤字：下田港／青字：御前崎港

### 事務所管内の主な動き

10月12日	第1回 静岡県港湾物流促進戦略策定調査委員会
11月13日	清水港興津 FAZ フェア
11月16日	第1回 体験学習による清水港観光交流促進協議会
11月25日	清水商工会議所 75周年
11月28日	第2回 田子の浦港みなとまちづくり推進連絡協議会
12月14日	第2回 体験学習による清水港観光交流促進協議会
	大井川町地方港湾審議会第3回幹事会
12月16日	清水港新興津地区人工海浜・緑地基本計画検討委員会

#### 地球深部探査船「ちきゅう」

駿河湾で大きな“やぐら”を載せた船を見ませんでしたか？その船の名前は地球深部探査船「ちきゅう」と言います。（独）海洋研究開発機構の所有船で、“やぐら”の高さは約70mあります。「ちきゅう」は深海底から7,000m深く掘削が可能で、岩石やマン托ルを採取し、地震発生メカニズムを解明しています。



提供：JMSTEC

#### 『清龍丸』が清水港にやってくる！



国土交通省所有の新「清龍丸」（母港：名古屋港）は航路浚渫と事故等による油流出事故への対応のため、旧「清龍丸」の代替船として平成17年4月に最新装備で配備されたものです。平成18年3月23日（木）～26日（日）に清水港に寄港し油回収訓練と一般公開を行う予定です。

### 防災の10モ



地震後の避難では、ガラスの破片などで足を痛めてしまうことがあります。そんなときは履物（スニーカー等）が重要。夜には枕元に履物を置いておくなど、常に身の回りに履物を用意しておきましょう。懐中電灯も忘れずに！

\* 62号では「みなとしみず」アンケートにご協力いただきありがとうございました。

## 海とみなとの相談窓口

全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと

# 0120-497-370

受付時間：9時～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください